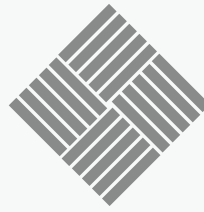


組紐・組物学会 ニュースレター

The Kumihimo Society Newsletter



Volume

12

Number

18

2024年4月20日



第7回作品展示会（京都市国際交流会館）

目次 Contents

第7回作品展示会「日本とアメリカの組紐展」報告	西 幾代・多田牧子	2
2023年度ワークショップの全記録		8
組紐・組物学会認定講師のwebサイト		9
組紐・組物学会会告		10

In this issue

7th Kumihimo-Society Exhibition	Ikuyo Nishi and Makiko Tada	2
Review of all the workshops in 2023		8
The Kumihimo-Society Authorized Instructors' website		9
Kumihimo events in and outside of The Kumihimo Society		12

組紐・組物学会ニュースレター

第12巻 通算18号 2024年4月20日発行
編集・発行 組紐・組物学会事務局 京都工芸繊維大学大学院
大谷研究室内 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町
TEL : (075)724-7905 E-mail : miyakoinoda1@gmail.com
本印刷物と同じ内容は学会のWebでもご覧になれます。



日本とアメリカの組紐展」報告



西 幾代・多田牧子

(写真1) 展示会場

1. はじめに

組紐・組物学会としては4年ぶりとなる第7回作品展示会が、2023年10月に京都市内で開催されました。前回は2019年10月に伊賀で開催された「世界の組紐展」でしたが、国際会議の一環として開催されたこともあって、13カ国から93名の作品と5グループの作品・研究成果を集めた大規模なものでした。今回もアメリカ組紐協会との共催の「日本とアメリカの組紐展」として米国人6名、日本人35名の作品が展示されました。

前回の展示会直後に始まったコロナ禍のため、多くの集會が不可能となり、家に籠ることが多かった3年間でした。それだけに多くの新作や大作が展覧され、一般公開された5日間に延べ400名の来場者がありました。本報告では、展示会の主役である組紐作品の中から数点を

解説するとともに、今後の作品展示会開催の参考になるかもしれない運営上の知見についてもご報告致します。

2. 作品紹介

全ての作品に努力の跡が見られ、甲乙つけ難いものばかりでした。使用された道具も、組紐ディスク・組紐プレート・オクトプレート・丸台・角台・綾竹台・高台など多岐にわたり、また道具を使わずに手だけで作られたものもあり、組紐・組物学会特有の本当に多彩な作品が出品されていました。全ての作品は紹介仕切れませんので、図録「日本とアメリカの組紐展」でご覧ください。ここではご自分で創意工夫されたものや、努力著しい作品を中心にご紹介いたします。



(写真2) 会場の京都市国際交流会館



(写真3)

清澤澄江「二重亀甲」と「唐組」

通常の亀甲組を横に2列に並べたもの。作者はいつか亀甲組を2個並べた作品を作りたいと目標にしていたそうです。手持ち6本で104玉と組目が細かく、眼鏡と虫眼鏡を同時に使って組まれたとのこと、美しい仕上がりで、「唐組」は、15代將軍徳川慶喜の唐組平緒に近づけて作成されたもので、8桁10菱、総糸数336条の力作です。1日10菱が限界で、制作期間はだいたい半年くらいとのこと、よく頑張られたと思います。(写真3)



(写真4)



(写真5)

岡本睦子

テーマを「スカーフと帯締め」に絞り、スカーフは安田組159玉で組み目がまっすぐで美しいです。帯締めは80玉で、漣組と高台唐組のバリエーションでまとめられています。組紐の職人さんがこれは綺麗だ！と褒めてくださいました。(写真4)

吉田有夫子

古典と全く新しいものを、帯締めとアクセサリで表現した作品群です。アクセサリは作者考案の組み方で、クネクネと面白くて楽しい組み方。帯締めでは日本文様の再現に取り組みられたシリーズ作品で、麻の葉、籠目、檜垣、立湧、亀甲、鱗、青海波など、上手に斜めに切り替えて、楽しい帯締めになっています。(写真5)

丸山文乃

新しい組紐を考案するのが得意な作者が「カールする組紐」を創り出しました。引っ張ると真っ直ぐに、緩めるとカールする組紐です。同じものを突き詰める姿勢が素晴らしいと思います。(写真6)



(写真6)



(写真7) 青木ふさえ

青木ふさえ

金属にも強い作者は、太さの違う銀の針金を組み、ひねりを加えた後に七宝を施すという素敵手法を考案しました。海の波のきらめく様子を表現したペンダントトップで、NHKの京都局番組「京いちにち」でも「これも組紐？」と紹介されました。4×3×8cm位の小さな作品です。(写真7)

青柳淑枝「ペルーとボリビアの組紐」

作者はペルーへ8回も訪れて組紐の研究を重ねています。「3色使い菱柄/リヤマニウイ」はペルーで習得した技法で組まれています。ボリビアの太い投石紐はずっと再現したく思っていたようで、Adele Cahlanderのテキストを参考に36本の糸を2本の指にかけて組まれた試作だそうです。道具を使わず、指だけで制作されるもので、とても綺麗にできています。(写真8)



(写真8) 青柳淑枝



(写真9) Susan Basch

Susan Basch

スーザンが遺した作品を展示できて大変嬉しく思います。スーザンはこれから仕立て上げようと考えていた組紐や手作りの装飾金具、ビーズで作られたパーツをそれぞれ一つのバスケットに入れて保管していました。同色系や心地よい配色で作られたいろいろな組み方のたくさんの組紐を、大きめのネックレス状に構成して展示しました。図録「日本とアメリカの組紐展」にいろいろ載っておりますので、どうぞご覧ください。(写真9)

Adrienne Gaskell

エイドリアンは、ビーズ組紐の第1人者で、表面にはビーズのみが見え、糸が全然見えない手法「ビーズ金剛組」を考案しました。アメリカではこのビーズ組紐を入口として組紐の世界に入る人たちが多く、組紐の普及にとっても貢献しています。今回は、ビーズがちりばめられた房無し飾りのビーズ金剛のラリアットやビーズ金剛組の組構造で実現できる多くのパターンで作られたネックレスや連続的にビーズを通した糸で組んだアクセサリーを出品しました。(写真10)



(写真10) Adrienne Gaskell



(写真 11) Giovanna Imperia

Giovanna Imperia

「Kumihimo, Wire Jewelry」を著している作者ジョバンナは、2色染や手染めの日本の絹糸と銀線や銅線を組み合わせて角台や丸台・高台で組み、金属（銀）の土台に留めつけた腕輪や、太さを増減したネックレス、素敵に立体的に形づけられるスカーフなど、大胆で独特なデザインで造形された作品を出品しました。組紐技法を上手に使ってあります。(写真 11)

Carolyn Kerr

組紐ディスクや組紐プレートを活用し、日本の金属糸・絹糸などで組んだジグザグ組紐や円螺旋組紐を多用したネックレスを出品。組紐を何本か重ねたり、組み合わせて複雑な造形をしています。その上にラブラドライト、ラピス、真珠、サファイヤ、ペリドット石、アクアマリン、ガーネットなどをほどこし、豪華です。日本製シードビーズと宝石を使用した手作りの磁気クラスプを自作し、さらに豪華な仕上がりになっています。(写真 12)



(写真 12) Carolyn Kerr

3. 展示会の特徴

(1) 一般公開

これまで本学会の作品展示会は、一般の方に対しても決して非公開ではなかったのですが、主に学会員の間だけで展示・見学・講評が行われていました。会場も京都工芸繊維大学の教室を利用することが多く、一般の方の来場にとって交通の便だけでなく、説明用のパネルやお持ち帰り用のパンフレット等もない不備な状態でした。一方、2019年の「組紐国際会議 2019 伊賀」では作品展示会は一般公開され、メディアは国際会議そのものよりも絵になる展示会を主に報道したこともあって、前述の様に多くの来場者がありました。

そこで今回は一般公開を前提とし、アクセスが良く、会場借料が安く、駐車場やWiFiを完備した会場として京都市国際交流会館をまず検討しました。この会場は地下鉄東西線の蹴上駅から徒歩5分という好立地で、南禅寺参道を挟んで無鄰菴の隣に位置する歴史的地区でもあります。イベントホール、会議室、ラウンジなど貸し施設も多く、特に「姉妹都市コーナー・展示室」は、国際交流を目的とした展示を京都市国際交流協会との共催で開催する条件で、割安の協賛金（搬入・撤収日を含む6日間で5万円）で利用可能と分かりました。

(2) 米国組紐協会との共催

本学会では、過去に米国組紐協会との合同ワークショップを4度開催していますが、2023年10月にもその予定がありました。米国組紐協会メンバーにも出展して頂ければ、国際交流を目的とする展示となり、上記の「姉妹都市コーナー・展示室」での展示会が可能になります。

そこで先方の了解を得て、「日本とアメリカの組紐展」として定例総会の承認を得て、京都市国際交流協会に申込みをしました。本学会員諸氏にとってアメリカの新しい潮流であるビーズ組紐は既によく知られていますが、一般の方にも知って頂く良い機会にもなると考えました。

一方、米国組紐協会から、その有力メンバーであったSusan Basch氏が前年に逝去されたため、その遺作の展示ができないかとの打診がありました。筆者らは彼女の作品の良さを知っていましたので、できる限り広い展示スペースを提供できるように配慮しました。また「日本とアメリカの組紐展」という題名は北米と南米を区別していないので、日本よりも古い歴史を有するインカ時代以前のアンデスの組紐も紹介することにしました。

以上の様に、会場借料の節約を追求するうちに、これまでの作品展示会には無かった様々な特徴を持つことになりました。



(写真 13) 展示パネル



(写真 14) 体験コーナー

(3) 説明手段いろいろ

立地の良い会場で、一般公開することになれば、これまでのように組紐の予備知識のある方だけが来場するとは限りません。丸台で帯締を組んでいる印象しか持っていない来場者が多いとすれば、展示作品の多様さに興味を惹かれ、その制作手段・材料・歴史的背景などを知りたくなるのではないのでしょうか。

その説明手段として、これまで実施してきた図録の出版だけでなく、会場の壁に設置するパネル（45x180cm-8枚）を製作しました（写真 13）。立て看板は会館入り口、1階階段前、2階エレベータ前に設置する様になっており、それぞれの寸法に合わせたポスターも必要になりました。更に京都市国際交流協会からの告知用に、DM/ハガキに相当するものが必要とされました。ハガキでは展示内容を説明しきれないと考え、A4サイズ4ページのチラシも作成しました。その性格上、開催以前に各所に配布されたため、本学会員諸氏の目に触れる機会が少なかったため、右頁に再録しました。

しかし、これらの印刷物以上に効果的な説明は実体験です。会場中央部に設置された体験コーナーでは、来場者の希望により随時くみもディスクによる実習が行われました。さらに必要に応じて過去のイベントの動画やスライドが見られる様に、学会の備品であるプロジェクターに個人のビデオ・サーバーをWiFi経由で接続し、組紐国際会議の様や実習体験者のための図などが随時投影されました。（写真 14）

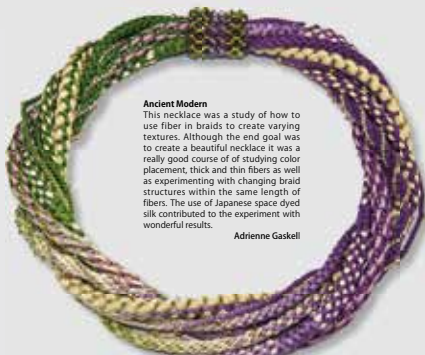
4. おわりに

会場は常設展示があるため、我々の展示物の搬入・搬出だけでなく、原状復帰までも我々が行わなくてはなりません。このため多くの会員の皆様に力仕事を願うことになりました。アメリカの出展者のうち3名は既に来日していましたが予定が合わず、予め筆者らに搬入・搬出作業を依頼していました。しかし13日金曜日の懇親会には全員が姿を見せ、団長のエイドリアン先生の好物であるデパ地下の惣菜とワインで会員の皆さんと交流を深めました。アメリカ人メンバーの要望に応えるべく、この時だけオープンした法人会員のショップもあったので、更に活況を呈しました。

入場無料とはいえ、受付の仕事が暇になることはありませんでした。図録は500円で販売していましたが、その横には無料と書かれた「アンデスの組紐を訪ねて」（青柳淑枝：著）が並べられ、さらに横には募金箱が置かれていたからです。この本は著者のご好意により学会に寄贈されたもので、来場者には基本無料でお持ち帰り頂くよう承っていましたが、お気持ちのある方には献金もお願いできればという学会の期待もあったのでしょうか。受付を担当された方（延べ9名）のお話では、図録と本を合わせて千円を箱に入れてくださる方が多かったとのことでした。本展示会がこれまでにない充実した、意義のあるものになったと思われるのは、皆様のご尽力によるものであり、この場を借りて心より感謝申し上げます。（写真 15）



(写真 16) 搬入参加・受付担当の皆さん



Ancient Modern
This necklace is a study of how to use fiber in braids to create varying textures. Although the end goal was to create a beautiful necklace it was a really good course of studying color placement, thick and thin fibers as well as experimenting with changing braid structures within the same length of fibers. The use of Japanese space dyed silk contributed to the experiment with wonderful results.

Adrienne Gaskell

組紐 日本とアメリカの組紐展

2023年10月11日~15日 kokoka 京都市国際交流会館2F



吊り重り無し組紐

ほとんどの組紐は、重り玉の重さの合計の中心の吊り重りと同じ長さまでとてられますが、これらは全て吊り重りを一切つけないで編んだ組紐です。吊り重りがないので、首の周りに帯状の吊り重り重さも、組紐の動きもスムーズなように重りを付けて、バランスよく組みます。難しいですが、とて素晴らしい組紐です。 From: top to bottom: Cascading (24 tama), Banquet-Kōchōji (16 tama), Kikko lace-tube (12 tama, 16 tama), Unbalanced Kōgōshi (24 tama) 主催者 Makiko Tada



2019年「世界の組紐展」伊賀市 旧御廣堂

日本とアメリカの組紐展

Exhibition of Japanese and American Kumihimo

kokoka 京都市国際交流会館 2F 京都市地下鉄丸太町駅徒歩5分 南禅寺参道前
Kyoto City International Community House, 2F 5min-walk from the Kyoto City Subway Ke-a-ga Station

日本の伝統工芸「組紐」は現在では世界中に広まり、各国の制作者や研究者が情報交換する国際会議や展示会も開催されています。アメリカでは、アクセサリへの応用が盛んで、特にビーズをあしらった組紐が研究されています。本年10月17日から、本学会と米国組紐協会有志が京都工芸繊維大学で合同のワークショップを開催しますが、この機会にアメリカの組紐と日本の組紐を比較しつつ、新しい組紐の潮流を一般の方にもご覧いただけるならは有意義ではないかと考え、一般公開の展示会と致しました。日本とアメリカの組紐作家40人が、伝統的な美しい全く新しい技法で制作した作品約150点が、過去の参考作品と共に展示されます。なお12日と14日の午前・午後1時間程度を従って、新しい組紐制作を体験できる講習会を展示会場内で行います。展示会受付でお申込み下さい。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

組紐・組物学会 担当理事 多田牧子・西幾代

The traditional Japanese braid, Kumihimo, has now spread over the world, and international conferences and exhibitions have been held where artists and researchers from various countries exchange information. Application of Kumihimo to accessories has been active in the U.S., particularly for those decorated with beads. The Kumihimo Society and the members of American Kumihimo Society are going to hold a joint workshop at Kyoto Institute of Technology from October 17 this year, and taking this opportunity, it would be meaningful to open this exhibition for the public to compare American and Japanese Kumihimo and to show the new trends of Kumihimo. About 150 works created by 40 Japanese and American Kumihimo artists using traditional or completely new techniques will be exhibited along with reference works from the past. On the morning and afternoon of the 12th and 14th, a one-hour workshop will be held in the exhibition room to allow visitors to try their hand at making new Kumihimo. Please inquire at the exhibition reception. We are looking forward to seeing you at the exhibition.

10月9日(月) 搬入 Installation	10日(火) 休館 Closed
10:00~17:00 展示物搬入 Installation of exhibits	kokoka 京都市国際交流会館 2F
10月11日(水)~15日(日) 作品展示会 Exhibition	
10:00~17:00 作品展示会 Exhibition, admission free	入場無料・図録は500円
午前・午後各1時間程度 講習会 1 (12日) Mini-workshop 1	参加無料 (材料は実費・道具は無償貸与)
17:30~19:30 懇話会 1 (13日) Buffet party	組紐・組物学会会員のみの(申込必要)
午前・午後各1時間程度 講習会 2 (14日) Mini-workshop 2	参加無料 (材料は実費・道具は無償貸与)
10:00~16:00 展示物搬出 (15日) Exhibits removal	搬出完了 17:00
10月17日(火)~19日(木) ワークショップ 1-day workshop	
10:30~16:00 ワークショップ (京都工芸繊維大学) Workshop (Kyoto Institute of Technology)	有料

京都市国際交流会館からの告知用チラシ (全4頁)

800 BC
Early/Island Naazca periods
初縄ナツナズカ時期

組紐は進化する

(1) 投石紐 (出土品) Sling braid

(2) 平紐 (出土品) Andean flat braid

(3) 唐組甲紐 (現在も存続) Karakumi-Hirao

(4) 両面亀甲紐 (高台による復元) Ryomen-kikko (Reconstruction)

(5)

(6)

2000年以前のアメリカには、高度な組紐文化が存在したが(1)(2)インカ時代になると消失した。日本には1400年遅れて組紐の全盛期が到来する(3)(4)。これらの組紐は道具を使わず、主に指と打込み棒だけのクチャ打で編まれていたと考えられている(5)。その後クチャ打用の足打台(6)や巻組用の巻紐機が開発された。江戸時代には丸糸や高台も登場して組紐の生産効率は向上した。しかし室町時代以降、組紐は装飾品として用いられ、その多様化は止まらなくなった。しかし明治以降は、日本と北米に新しい潮流が見られる。組紐の宿命と思われ組紐色の種類(糸の強力の「バンス」)をあえて考慮しない、自由な輪軸をもつ組紐(7)と組糸の全長を1ビーズを通して1台台組み、柄や色彩の多様性だけでなく、糸が直接肌に触れない装飾品としての合理性をもつビーズ組紐(8)である。「日本とアメリカの組紐展」では、日本の伝統の組紐だけでなく、これらの新しい組紐にもご注目下さい。

(7) 軸の自由な組紐 Moving-axis braid

(8) 金閉組紐ビーズ組紐 Beaded Kumihimo

800 BC
Early/Island Naazca periods
初縄ナツナズカ時期

600 AD
800
Heian and Kamakura periods
平安・鎌倉時代

1690_人輪訓練図説 三谷一馬(横) 足打台 Loop braiding

1722_西人女部品定 西川隆信 Early Yotsudai

1819_精緻巻輪 大岡埜葉(高台) Takadai and center-hole Marudai

1850 風流人尽 浪川伏舟 組上げ式丸台 Manudai

2001_3D 組紐 (京都工繊大) 3D braiding machine

2002_くみもディスク・フレート・オクトプレート(リマダ)とEZ-ポビン(沢園製)

1900
2000
Shōwa and Heisei periods

2023
現代Shōwa periods

800 BC
Early/Island Naazca periods
初縄ナツナズカ時期

組紐の道具も進化する

現代の投石紐 Sling braid

投石紐を持つ者 Ceramic Slinger

古代南アメリカの組紐は道具を使わず、指だけで編まれていた。日本では明治時代までに、今日使用されている組紐の指とが改良され、明治以降は産業用の組紐の機械化も開始された。いっぽう組紐を用いた組紐制作では、おもりの重量による可塑性の問題、木工職人の不足などによる組紐費用の増大などが、個人組紐制作の普及を妨げた。プラスチックフォームに組糸挿入のストリートを有する「くみもディスク」の登場により、安価に、場所を問わずに組紐制作が可能になったことは、組紐の普及に大きく貢献した。また、組紐が強い場合、これを巻き取るボンビにも重層で糸の取り出しの容易な「EZ-ポビン」がアメリカで開発され、くみもディスクと併用されている。「日本とアメリカの組紐展」では、これらの新しい組紐道具を用いた組紐制作の講習会を開催する予定です。

1819_精緻巻輪 大岡埜葉(高台) Takadai and center-hole Marudai

1850 風流人尽 浪川伏舟 組上げ式丸台 Manudai

2001_3D 組紐 (京都工繊大) 3D braiding machine

2002_くみもディスク・フレート・オクトプレート(リマダ)とEZ-ポビン(沢園製)

1900
2000
Shōwa and Heisei periods

2023
現代Shōwa periods

「日本とアメリカの組紐展」に関するお問い合わせはこちらまで: braid@kumihimo-society.org

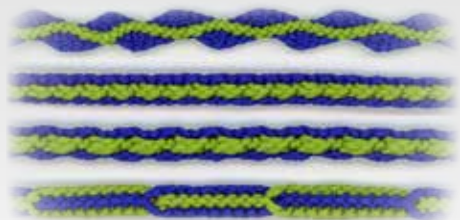
会場 Venue	主催 Organizer	共催 Co-organizer
kokoka 京都市国際交流会館 Kyoto International Community House 2F 縁廊市コーナー展示室 〒606-8536 京都市左京区東田口鳥居町2-1	組紐・組物学会 The Kumihimo Society 京都工芸繊維大学大学院 先端フアイブ工学 大谷研究室内 〒606-8585 京都市左京区伏見区崎町南瀬町	(公財) 京都市国際交流会館 Kyoto City International Foundation 米田組紐協会 American Kumihimo Society



2023年度

「江戸瀬とジグザグ八つ瀬」

2023年5月13日(土) 多田牧子



江戸瀬3種、そのバリエーション1種、ジグザグ八つ瀬1種を組紐ディスク、オクトプレート、丸台で楽しんでいただきました。江戸瀬は縦方向で江戸八つ、横方向で八つ瀬を組んだもので、組む回数により違う表情の組紐ができる。ジグザグ八つ瀬は江戸八つを組む位置を左右に動かし、ジグザグ形にしたものです。

「ビーズ組紐いろいろ」

2023年10月17-19日(火水木) Adrienne Gaskell



対面式の組紐・組物学会ワークショップを3年ぶりに開催しました。インサイドアウト江戸八つ組はネックレスにしたい土台の組紐を各自好みの色で組んできて頂きそれにビーズを通した糸でカバーしました。朝露組は老松組を基本に段数を変え、朝露が置かれたような美しい組紐を作りました。

「四つ組を楽しむ」

2023年6月10日(土) 西幾代



「四つ組を楽しむ」をテーマに「四つ組×2」と「七宝レース組」の制作を行いました。「四つ組×2」は丸四つ2本にコード2本またはビーズを通した糸などを組み入れて色々遊べる組紐で、「七宝レース組」は、七宝組の組む段数をそれぞれ違えてレースのようにできるネックレスに最適な組紐を実習しました。

「雪の結晶(円形唐組)」

2023年12月2日(土) 岡本睦子



円形唐組で美しい雪の結晶ができます。ワークショップでは円形唐組の基本を習得するために、コースターをコットン糸で組みました。円形唐組は全ての菱が隙間なく隣り合って並びますが、雪の結晶を作るには途中で糸を足さずに菱の間を開けるなど、工夫された組み方をビデオで学びました。

「同時組(平源氏・安田組)」

2023年8月5日(土) 丸山文乃



「同時組(平源氏・安田組)」は、長手方向に半分ずつ平源氏と安田組を並べて組むものです。大変工夫された面白い組紐で、方向転換をしてジグザグの紐にもなりますので、ネックレスにしても素敵です。丸台やディスクで柄が出るまで実習し、創作の組紐を考えるヒントや方法のお話もしてくださいました。

「形を変えられる組紐アクセサリー」

2024年2月10日(土) 鈴置有子



2色の毛糸を使い、ワイヤーを組込む金剛組で茎を作り、その先の花部分を違う色を足して円螺旋組で製作しました。その繋ぎ目を綺麗に組む工夫された方法を学びました。指輪・ブレスレット・スカーフ留め・ブローチ等に形を変える事が出来る楽しいアクセサリーができました

組紐・組物学会認定講師の web ページ

組物検定の一級に合格し組紐・組物学会認定講師となった方のために、学会はこれまで認定講師の方の経歴や作品を小冊子にまとめ、刊行することで外部に紹介してきました。しかし、経歴は変化するものであり、作品もまた代表作が後から生まれて来るかも知れません。そのような更新に対応できる手段として web サイトが有効であり、また製作費用も割安となります。そこで現在試験的に、認定講師 10 名の web サイトを構築中です。

ここに紹介するのは各講師のトップページの雛形で、その方の作品はこのページから辿れる用になります。変更の必要な内容は各認定講師からの申告により逐次更新されます。

また学会が製作している認定講師の名刺についても、同様に更新が必要な場合があります。しかし逐次更新ではなく、印刷の費用も大きくないため現在の部数が切れたら更新の制作・印刷を検討することと致します。

組紐・組物学会認定講師



紐屋 組子

富山県黒部市在住

2000 年 ABC 和装教室に入門。

書かけ教室にて DF 流組紐を学ぶ。

2007 年 8 月 京都工芸繊維大学でのワークショップに参加。

2007 年 11 月 第 1 回組紐国際会議 2007 (京都) 参加。

2019 年 11 月 第 4 回組紐国際会議 2019 (伊賀) 参加。

2023 年 12 月 組紐・組物検定一級合格。組紐・組物学会認定講師となる。

2024 年 9 月 京都工芸繊維大学博士課程修了。博士(学術)取得。

作品ページへ ▶



Kumiko Himoya

ペンダント・ネックレスなど

本サンプルの作品は銭谷さんの作品をお借りしています。

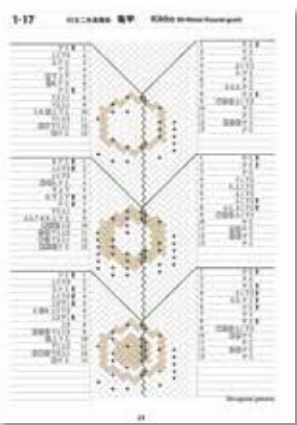


新しい組紐の本



この会報でも詳細が報告されている、本学会の第7回作品展示会の図録です。3年ぶりのため出展者数が多く、これにアメリカ組紐協会の作品が加わったことで、従来より8頁増加しました。残部がありますので、ワークショップ会場の受付にてお求めください。

- 書名：「日本とアメリカの組紐展」図録
- 編集：組紐・組物学会
- 体裁：中綴じ32頁、フルカラー
- 定価：500円（税込）
- 発行：組紐・組物学会 2023年9月30日



本書は永く品切れだった印刷版を増刷したものです。高台2枚物の模様の組み方（柄だし）を、2枚高麗組は62種、2枚安田組は5種、収録しています。また、ご自分でオリジナルの模様を作ることができるように「綾書」の読み方と書き方、高台での組物の製作方法をわかりやすく解説・図解しています。

- 書名：「高台の組紐3」改訂改訂2版2刷
- 著者：多田牧子
- 体裁：B5版、ソフトカバー164頁、フルカラー
- 定価：7700円（税込）
- 発行：(株) テクスト 2023年2月25日
- ISBN：9784925252151

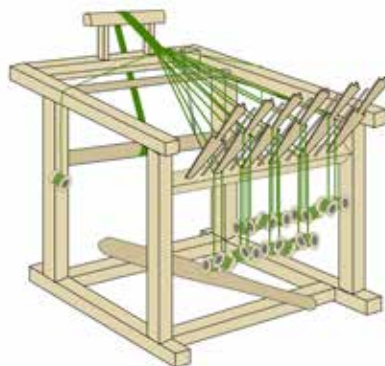
第12回組物検定終了 2023

第12回の組物検定試験は2023年12月2日に京都工繊大と工繊会館にて行われました。受験者は2級が1名、3級が1名で、両名とも好成績で合格しました。2級受験者は外国人ということもあって、3級受験者とは筆記試験、実技試験とも別日程となりました。

2級の実技試験のうち、高台は伊賀の廣澤工房で、丸台は京都工繊大でそれぞれ実施されました。また筆記試験は京都工繊大で英語で行われ、出題には大谷・多田理事と仲井会長が携わりました。



3級受験者の受験準備は、オンラインで簡単な直前講座を行いました。筆記試験は午前中、実技は午後、綾竹台（2種類指定を10cmずつ）・丸台（自作の創作組紐を1種類）を1時間ずつ、計2時間行いました。提出作品は綾竹台作品（2年以内に制作したもの）2本を提出して頂きました。今後も頑張ってくださいと思います。



第13回組物検定 京都

第13回の組物検定試験は2024年12月14日(土)に京都工芸繊維大学で行われる予定です。1・2級高台試験は伊賀廣澤工房の予定(日時未定)です。

組物検定は、組物を社会に広め、組物技術の向上と発展、技術指導者の育成を目的として、組紐・組物学会が2010年度から実施している検定試験です。性別・年齢・学歴等の制限はありません。

検定基準となる各級の技術到達度および試験範囲は以下のとおりです。学会ホームページもご参照下さい。

■5級：丸台と角台の8玉、16玉。

組物の基礎的な技能と知識があるか。

■4級：丸台16玉、24玉。

組物について専門的スキルと知識があるか。

■3級：クテ打初級、綾竹台初級、丸台など。

組物について専門的スキルと知識を持ち、丸台で創作組紐を作るなど、応用能力があるか。

綾竹台作品2本以上(2年以内に制作したものが望ましい)

■2級：クテ打中級、綾竹台、高台1枚物など。

組物について専門的スキルと知識を持ち、指導者の補佐ができるか。なお2級を受験する方は以下の作品を実技試験の日にご持参下さい。

高台1枚物作品2本以上(2年以内に制作したものが望ましい)

提出作品をこれから組まれる方は房を付けない組みっぱなしで提出して下さい。

■1級：高台2枚物、唐組台など。

組物について高度な専門的スキルと知識を持ち、指導する実力があるか。なお1級を受験する方は以下の作品を実技試験の日にご持参下さい。

高台2枚物作品2本以上

(2年以内に制作したものが望ましい)

提出作品をこれから組まれる方は房を付けない組

みっぱなしで提出して下さい。

1級合格者は、組紐指導者として活躍できるよう、個別の作品展の開催、「組紐・組物学会認定講師」の名刺(学会ロゴ入り)の制作などを学会が支援します。

■合格判定

筆記試験は獲得点数により判定します。合格ラインは年度により変化しますが、5級が75点、4～2級が80点、1級は85点前後です。

実技試験は試験会場で組まれた作品をもとに審査員が判定します。間違いの有無、時間内に所定の長さで組まれているか、動作と出来映えの3つの観点からA, B, Cの3段階評価とし、A, Bが合格となります。

なお、今年不合格になった科目は、翌年にその不合格科目のみを受験して合格すれば、その級に合格することが出来ます。

■受験申込要領

受験申し込みは、住所、氏名、電話番号、メールアドレスを、電子メールまたは葉書で11月10日までに学会事務局までお送り下さい。受験料は8000円(絹糸の材料費を含む)です。銀行振込または当日の現金払いも受け付けます。なるべく早めに事務局にご連絡下さい。細かい注意点などがございます。組紐・組物学会事務局
京都工芸繊維大学大学院 大谷研究室内
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町
Tel: (075)724-7905、E-mail: miyakoinoda1@gmail.com

■匠検定(日時等は廣澤工房にお問い合わせ下さい)

筆記試験のない実技のみの試験として、廣澤工房主催の「匠検定」があります。1級より難しく、高台2枚物の技能を伊賀組紐の基準によって検定するものです。組目の美しさ・組紐のデザイン能力などが問われます。提出作品は2年以内に製作した作品2点以上。

2016年度 実技試験



第12回定例総会報告 2023

2023年度の総会は、出席者46名、委任状59名で現会員数の82%となって成立し、2023年5月13日にオンラインで開催されました。2022年度に実施されたワークショップや組紐・組物検定などの行事報告および会計報告、2023年度の行事としてワークショップや第7回作品展、組物検定の予定と予算案などが示されました。

現在の会員数は、一般会員118名、法人会員5法人となっており、2022年度の収入は84万円、2023年度への繰越額は15万円(1万円以下四捨五入)となっています。また総会前の12:30から開催された理事会で、新しい理事2名が提案・承認され、13:15から開催された総会で承認されました。新理事は丸山文乃理事と吉田有夫子理事です。以上の議案は全ての出席者によって承認され、総会は閉会しました。



役員

- 会長
仲井朝美 : 岐阜大学工学部
- 副会長
西 幾代 : 組紐研究者
松梨久仁子 : 日本女子大学
- 理事
荒川光久 : 全国くみひも教材センター
上田隆久 : 日本ピラー(株)
魚住忠司 : 村田機械(株)
大谷章夫 : 京都工芸繊維大学
北村雅之 : 北陸ファイバークラス(株)
倉谷泰成 : (株)カドコーポレーション
多田牧子 : 組紐研究者
寺本 靖 : (有)寺本文化財工芸社
西本博之 : 大阪産業大学
濱田泰以 : (株)伝統みらい
濱中知子 : ハマナカ(株)
廣澤浩一 : 廣澤徳三郎工房
圓井 良 : 圓井繊維機械(株)
丸山文乃 : 組紐研究者
吉田有夫子 : 組紐研究者
渡辺一生 : 渡敬(株)

事務局

- 猪田宮子 : 京都工芸繊維大学

ワークショップ予定 2024-2025

- 第1回ワークショップ・定例総会(京都工芸繊維大学)
5月11日(土) 10:00～16:00 西 幾代
- 第2回ワークショップ(日本女子大学)
6月15日(土) 10:00～16:00 多田牧子
- 第3回ワークショップ(日本女子大学)
10月12日(土)～24日(木) 10:30～16:00
エイドリアン・ガスケル
- 第4回ワークショップ(京都工芸繊維大学)
10月23日(水)～24日(木) 10:30～16:00
エイドリアン・ガスケル
- 第5回ワークショップ(京都工芸繊維大学)
12月14日(土) 10:00～16:00 吉田有夫子
- 第6回ワークショップ(日本女子大学)
2025年2月15日(土) 10:00～16:00 青柳淑枝



2024年5月予定の京都ワークショップ「ささなみ別れ」



組紐・組物学会事務局

京都工芸繊維大学大学院
大谷研究室内
〒606-8585
京都市左京区松ヶ崎御所海道町
Tel: (075)724-7905
E-mail: miyakoinoda1@gmail.com
www.kumihimo-society.org
ご入会、ワークショップ、組紐
検定、シンポジウム講演、作品・
製品展参加のお申し込みはこち
らお願いします。